

# 検便1日2個法を廃し、検便2日法に変更決定

鳥取県生活習慣病検診等管理指導協議会大腸がん部会  
鳥取県健康対策協議会大腸がん対策専門委員会

- 日 時 平成24年2月9日（木） 午後3時～午後4時45分
- 場 所 鳥取県健康会館 鳥取市戎町
- 出席者 27人  
岡本健対協会長  
秋藤・大口・岡田・尾崎・音田・岸・田中・富田・長井・山本・吉中各委員  
音田委員（中部医師会よりテレビ会議参加）  
古城部会長、木村専門委員長、遠藤・田村・八島各委員  
（西部医師会よりテレビ会議参加）
- オブザーバー：藤原鳥取市保健師、川口岩美町保健師  
県健康政策課がん・生活習慣病対策室：野川室長、山本主幹  
下田副主幹、野口主事  
健対協事務局：谷口事務局長、岩垣係長、田中主任

## 【概要】

・平成22年度受診者数、受診率は平成21年度に比べ僅かに増加したが、要精検率は約8%で推移しており、精検受診率、がん発見率、陽性反応適中度は例年と同様の結果で推移している。また、要精検率、陽性反応適中度は圏域での差がみられなくなった。

検体の回収方法の工夫次第で、受診率向上につながるのではという意見が委員よりあった。また、要精検者の精密受診率を高めることでがん発見を高めることも重要との意見があった。

・鳥取県大腸がん検診実施に係る手引きを、『免疫便潜血検査を用い、2日法で行う』と改正することとし、改正案が原案のとおり承認され、平成24年度から適用することとなった。特に、正しい採便方法の様式例が、住民により分かりやすいものに改正された。

## 挨拶（要旨）

〈岡本会長〉

本日は、悪天候のため急遽テレビ会議へ変更し開催させていただいた。

手引きを採便2日法と変更した改正案が本日承認され、平成24年度より適用することとなると思う。今後の大腸がん検診の充実を図る上で、委員の皆さんのご意見を伺いながら、進めていきたい。

〈古城部会長〉

精検方法として、注腸X線検査をしばらくは続行することとしているが、内視鏡検査を中心とした検査方法にいつの時点で変更していくのか、22年度実績、23年度実績見込みを踏まえてご検討、ご議論をお願いします。

〈木村委員長〉

南部町の受診率向上につながればということか

ら、今年の1月から血液中のアミノ酸濃度を測定してがんの可能性を予測する方法を導入した。

## 報告事項

### 1. 平成22年度大腸がん検診実績最終報告並びに 23年度実績見込み・24年度計画について

〈県健康政策課調べ〉：

山本県健康政策課がん・生活習慣病対策室主幹  
〔平成22年度実績最終報告〕

対象者数（40歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数）は188,186人で、このうち受診者数は49,374人、受診率は26.2%で、昨年度とほぼ同様な結果であった。

このうち要精検者数は3,776人で、要精検率7.6%、精検受診者は2,848人、精検受診率75.4%であった。

精密検査の結果、大腸がんは133人、大腸がん疑いは5人であった。がん発見率（がん／受診者数）は0.27%、陽性反応適中度（がん／精検受診者数）は4.7%であった。

受診者数、受診率は平成21年度に比べ僅かに増加したが、要精検率は約8%で推移しており、精検受診率、がん発見率、陽性反応適中度は例年と同様の結果で推移している。

要精検率は東部7.4%、中部6.5%、西部8.5%、がん発見率は東部0.296%、中部0.233%、西部0.259%、陽性反応適中度は東部5.2%、中部5.0%、西部4.0%で、圏域での差がみられなくなった。

検診機関別の要精検率は、鳥取県保健事業団6.1%、中国労働衛生協会6.2%、病院8.1%、診療所8.9%であった。

受診率向上対策の取組として、大腸がん検診未受診者に対し、町のイベント会場での検体提出をダイレクトメールで案内するなど積極的に取り組んだ町の中には、受診率が6.7ポイント増加したところもある。また、高い受診率で安定している町では、健康づくり推進員が熱心に住民に受診勧奨していると聞いている。検診は受けるものだと

いう住民意識が定着しているのではないかと。

また、市町村の中には、国保人間ドックが県の各種がん検診の手引きに沿った検診方法で実施されていないため、健対協の実績報告に計上していないところがある。

今後、医療機関に対し、手引きに沿った検診方法を働きかけ、計上できるように取り組むことを予定している市町村もある。

検体の回収方法の工夫や、町の保健師のアプローチ次第で、受診率向上につながるのではという意見が委員よりあった。

〔平成23年度実績見込み・平成24年度計画〕

平成23年度実績見込みは、対象者数187,601人に対し、受診者数は54,800人、受診率29.2%で平成21年度より約5,400人増の見込みである。また、平成24年度実施計画は、受診者数59,881人、受診率31.9%を予定している。

〈鳥取県保健事業団調べ〉：富田委員

〔平成22年度検診実績〕

地域検診は19,187人が受診し、そのうち要精検者数は1,166人、要精検率6.08%、精検受診者数は861人、精検受診率73.8%であった。精密検査の結果、大腸がんは32人発見され、大腸がん発見率0.17%、陽性反応適中度3.72%であった。また、がん疑い1人、ポリープ352人、ポリープ発見率1.83%であった。

全受診者の中で、初回受診者（初回受診＋6年以上前受診）は、受診者数1,916人、全受診者の10.0%であった。要精検者数は134人、要精検率6.99%、精検受診者数は92人、精検受診率68.7%であった。精密検査の結果、大腸がんは7人発見され、大腸がん発見率0.37%、陽性反応適中度7.61%であった。

職域検診は16,618人が受診し、そのうち要精検者数は867人、要精検率5.22%、精検受診者数は409人、精検受診率47.2%であった。精密検査の結果、大腸がん22人発見され、大腸がん発見率

0.13%、陽性反応適中度5.38%であった。また、ポリープ182人、ポリープ発見率1.10%であった。

また、初回受診者は、受診者数1,973人、全受診者の11.9%であった。要精検者数は104人、要精検率5.27%、精検受診者数は49人、精検受診率47.1%であった。精密検査の結果、大腸がんは2人発見され、大腸がん発見率0.10%、陽性反応適中度4.08%であった。

職域検診の精検受診率が依然として低率であるので、受診勧奨が重要である。

それに比し、市町村が実施する地域検診の精検受診率は高率であり、保健師の受診勧奨の賜であるとの話があった。

[平成23年度実績見込み（平成23年12月31日現在）]

地域検診の受診者数は18,605人、職域検診は13,588人の見込みである。

#### 〈吉中委員〉

鳥取県ではカットオフ値を集団検診では140ng/ml、医療機関検診は100ng/mlで実施されると認識しており、適切に精度管理がされている。要精密となった者に確実に精密検査を受けてもらうことも重要。

## 2. 平成22年度発見大腸がん患者確定調査結果について：田中委員

検診で発見された大腸がん及びがん疑い138例について確定調査を行った結果、確定癌132例（地域検診34例、施設検診98例）、腺腫3例、非がん2例、過形成ポリープ1例であった。そのうち早期がんは81例、早期癌率は61.4%であった。部位、大きさ等記入もれのものがあり、再度調査中である。最終集計は、後日取りまとめる。

調査の結果は、以下のとおりで、例年と同様な傾向であった。

(1) 性及び年齢では男女とも60歳以上からがんが多く発見された。

(2) 部位では「R」と「S」が62.9%、肉眼分類では「2」29.5%であった。早期癌の肉眼分類では「Ip」「Isp」が46.9%であった。

(3) 大きさは、10mm以下が26例（19.7%）であった。また、大きさが記入していない症例が9例もある。

(4) Dukes分類は「A」が71.2%、組織型分類は「Well」が61.4%、「Mod」が28.0%であった。

(5) 治療方法は外科手術が33例（25.0%）、内視鏡下手術39例（29.5%）、内視鏡治療は55例（41.7%）であった。内視鏡下手術が年々増加傾向にある。

(6) 逐年検診発見進行大腸がんは16例（東部5例、中部4例、西部7例）であった。

16例中、前年度の結果が要精検だったのが2件あり、1件は異常なし、1件は精検未受診であった。各地区で症例検討を行って頂き、問題点等について検討して頂く。

## 3. 各地区大腸がん注腸読影会及び講習会実施状況について（1月末集計）

#### 〈東部－尾崎委員〉

2回の読影会を行い、2症例を読影した。その結果、異常なし1件、要内視鏡検査1件であった。大腸がん検診従事者講習会は10月14日に開催した。

#### 〈中部－音田委員〉

2回の読影会を行い、2症例を読影した。その結果、異常なし1件、その他1件であった。大腸がん読影講習会を3月3日開催予定。

#### 〈西部－遠藤委員〉

23回の読影会を行い、112症例を読影した。その結果、異常なし39件、要内視鏡検査25件、その他48件であった。大腸がん検診従事者講習会を3月1日開催予定。

#### 4. 「鳥取県大腸がん検診精密検査医療機関」及び「鳥取県大腸がん注腸X線検査医療機関」の追加登録について：

前回の部会・専門委員会後に、「鳥取県大腸がん検診精密検査医療機関登録」として1医療機関、「鳥取県大腸がん検診注腸X線検査医療機関登録」として1医療機関の追加登録を行った。

その結果、平成24年1月現在で、「鳥取県大腸がん検診精密検査登録医療機関」は70医療機関、「鳥取県大腸がん検診注腸X線検査医療登録医療機関」は27医療機関が現在登録されている。

#### 協議事項

##### 1. 鳥取県大腸がん検診実施に係る手引きの改正について

前回の会議において、鳥取県大腸がん検診実施に係る手引きを、『免疫便潜血検査を用い、2日法で行う』と改正することとし、平成24年度から適用することとなった。

検診方法の変更に伴い、手引きに規定される各様式（採便方法説明）の一部改正案が示され、協議の結果、原案のとおり承認された。

特に、様式例2の正しい採便方法が、住民にとって、より分かりやすいものに改正された。

##### 2. 大腸がん検診従事者講習会及び症例検討会について

平成24年8月4日（土）に中部で開催予定。講師等は吉中委員、秋藤委員で後日検討して頂くこととなった。

#### その他

##### 下田県健康政策課がん・生活習慣病対策室副主幹より説明

県は、がん検診受診率向上を目的とした「がん検診受診率向上プロジェクト2012～ほっと安心！みんなで「はじめる・続けるがん検診」～」を実施する予定。検診体制強化として、特定健診・がん検診同時受診体制整備事業、レディース検診推進事業、検診受診率向上戦略研修会を新規事業として行う予定である。

また、啓発活動として、従来のテレビCM、ラジオCM、新聞広告、大型ショッピングセンター等での啓発活動に加えて、来年度は「女性特有のがんを考えるフォーラム（仮称）」の開催、乳がんピンクリボン運動推進事業などを行う予定である。

